

令和6年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立立川高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 教務生活指導部主幹（事務局長）、教務生活指導部（記録）、経営企画課長代理 計3名
- (3) 内部委員の構成
統括校長、副校長、経営企画課長、主幹教諭(教務生活指導部担当)、進路主任、計5名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
PTA会長、PTA役員、芙蓉会（同窓会）会長、七生特別支援学校長、育て上げネット事業担当執行役員、育て上げネット社会連携事業担当、立川市子ども家庭部子ども育成課長 計7名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年7月5日（金曜日）内部委員5名、協議委員5名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明（部活動・行事の様子、進路準備近況、併修制度等）意見交換
 - 第2回 令和6年10月11日（金曜日）内部委員5名、協議委員5名
これまでの教育活動に関する報告（自立支援活動について）
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和6年12月6日（金曜日）内部委員5名、協議委員4名
これまでの教育活動に関する報告（行事など）
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年10月11日（金曜日）内部委員6名、協議委員1名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第2回 令和6年12月6日（金曜日）内部委員6名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理
評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・10.11月	全校生徒	対象：140人	回収：107人	回収率：76.4%
・10.11月	保護者全員	対象：140人	回収：46人	回収率：32.9%
・	地域・住民	対象：実施せず	回収：人	回収率：%
・10.11月	教職員	対象：13人	回収：12人	回収率：92.3%
- (3) 主な評価項目
・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備など
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・前年度から肯定的な意見が増加した項目の割合は、生徒アンケートが33%、保護者アンケートが81%であった。生徒・保護者の学校に対する満足度を来年度以降も維持・向上させていきたい。
 - ・教員アンケートにおいては、前年度から否定的な意見が増加した項目の割合が56%にも及んだ。教員の働き方改革や生徒の育成方針を中心に改善させていく必要がある。
 - ・教員は、「わかりやすい授業」、「体罰や暴力をなくす取組」について、自負している。
- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・生徒アンケートにおいて、昨年度と比較し9項目において肯定的な意見の割合が減少しているが、いずれも6%未満の減少にとどまっている。このことは、昨年度の評価が高かった分、現状維持をしていると言える。普段から生徒の意見を傾聴し、わずかな変化を見逃さずに未然防止に努め、今後も生徒の実態に合った支援・指導が必要である。
- ・保護者アンケートにおいて、昨年度に引き続き13項目について肯定的な意見の割合が増加している。特に、項目(12)「部活動が活発」、項目(14)「施設・設備の充実」、項目(15)「体罰や暴力を無くすために、積極的に取り組んでいる。」の3項目については、肯定的な意見の割合が10%以上増加している。保護者からの高評価を今後も維持するために、更に分かりやすく情報開示をしていく必要がある。
- ・教員アンケートについて、特に学校行事やライフ・ワークバランスの項目が昨年度より否定的な意見が増加している。具体的な問題点を洗い出し、解決していく必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒アンケートにおいて、4項目、保護者アンケートにおいて3項目が肯定的な意見の割合が過去10年間で最高であった。これらの結果は、教員の地道な努力の賜物であり、大きな成果であることが客観的にも認められた。特に、項目(1)「立高生活は生徒にとって有益」については、生徒・保護者ともに過去最高の高い評価であった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・項目(1)立高生活は生徒にとって有益、(12)部活動の充実の2項目について、生徒・保護者と教員のアンケート結果が対照的になった。このことは、教員の育成すべき生徒像とのギャップが原因であると考えられる。また、項目(10)学校行事は生徒にとって有益についても生徒と保護者・教員で差があった。これらの項目においては、良い方向に意識の差が縮まるように改善を要する。
- ・生徒や保護者の満足度が高まる一方、教員の働き方改革等に課題が生じている。どの業務に負担がかかっているかを明らかにし、改善していく必要がある。
- ・地域資源などをもっと積極的に活用し、生徒の進級率・卒業率の向上を図る必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・生徒、保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を明示し理解を得る工夫をする。
- ・生活指導については校内組織改編を図ると共に、今まで以上に外部機関、保護者との連携を強化する。
- ・積極的に地域、自治体（立川市など）の取り組みに協力し、生徒の利益向上を図る。

(2) 学習指導

- ・「主体的・対話的で深い学び」及び「探究的な取組」を推進し、「分かる・楽しい」授業改善を進める。
- ・開発研修、自主研修等の積極的派遣を通して、研究成果を現場に還元する。
- ・ICTリーダーを中核に、ICT機器を整備し、積極的な相互授業観察を行い、工夫した授業を推進する。

(3) 特別活動

- ・PTAと芙蓉会（同窓会）の支援を受けながら学校行事、部活動（全国大会2部出場）の更なる充実を図り生徒の参加率を向上させる。

(4) 生活指導

- ・校内外における喫煙行為を組織的に未然防止する。虐待・いじめ防止対策委員会の機能充実を図る。

(5) 進路指導

- ・自立支援継続活動において、YSW・SC、NPO法人育て上げネット等の外部機関と連携を密に取り、きめの細かい就労支援と福祉支援を更に充実させる。

(6) 健康・安全

- ・学校給食の喫食率の維持、向上を図る。給食運営委員会の設置・点検指導により課題の改善を図る。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	1					2

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

【成果】

8 その他

- ・保護者アンケートの回答率の向上を図るため、アンケート実施を授業公開後に設定するなど対策した結果、保護者の回答率は11%増加した。今後も更に回答・回収方法を改善する必要がある。
- ・校内組織を活性化、改編し、学校長のリーダーシップのもと、課題の改善を積極的に図る。